プレミアム花壇の部

総　評

審査は、7 月 26 日に行いました。今年は、7 月中旬以降、35℃前後の猛暑日が連日のように続きました。今までにない過酷な状況で栽培管理を続けている皆さんに、頭が下がる思いです。毎年続けることだけでもたいへんなご努力であると感じました。そのような状況でも対象の 6 花壇は、長年の経験による高い栽培技術により例年以上の出来栄えでした。それぞれの花壇の立地条件、環境条件、参加人数などが異なる中、どの花壇も状況に合わせた花壇づくりを行っていました。栽培管理、デザインの差がほとんどない中で、地域の子供たちが参加できる取り組みが評価され、『小杉花作り同好会』がわずかな差で最優秀賞に選ばれました。『市井コミュニティー花壇』は、栽培管理、繊細な植栽デザインの挑戦において最も高い評価を得ました。『五ケみちグループ』では朝から高温になるため朝夕の潅水を夕方だけにする新たな取り組み、『梅ケ島フラワー街路の会』では、据え置き栽培ができる宿根草を増やし労力の軽減できるデザインの改良なども行われていました。『北部花緑愛好会』では、色彩理論に基づいた彩り豊かな花壇づくりを楽しみながら行っていました。『寺﨑啓乃さん』は株分けした宿根草を毎年地域に還元しながら、花の輪を広げ続けていました。

今後は、高低差のある花木を利用し目線を手前から奥へと導き、富山の風景とつながる花のある景観づくりへの取り組みなども期待いたします。また高齢化、担い手不足の声が聞こえる中で、持続できる仕組み作りは地域任せではなく全体で考える課題であると思いました。

最優秀賞評

射水市の『小杉花作り同好会』が、昨年に引き続き最優秀賞を受賞しました。花壇は多くの人々が行きかう歌の森運動公園内にあり、地域の花のある景観づくりに成功していました。地域の幼稚園やフリースクールと連携し、ヒマワリの種ダンゴ作りから植栽まで行うとともに、子供たちの似顔絵を描いた看板を設置する等、参加型の取り組みが評価されました。

ヒマワリについては、子供の目線にあわせて 100 ㎝程度の矮性品種を選び、開花後も花壇を訪れて成長を楽しめるようになっていました。また昨年の秋に結実したヒマワリの種子を子供たちに持ち帰ってもらい、家庭で花壇づくりを楽しむことができるように活動の幅を広げていました。昨年はヒマワリの花壇を際立たせるために、高さを抑えた宿根草のグループ植栽となっていましたが、今年の審査会ではマンネリ化を防ぐため、メインの花壇デザインとヒマワリの花壇とを一体化させるような工夫があると良いとの意見もありました。また、有毒植物であるイソトマは、子供たちが触れる場所に植栽するのを控えるなどの配慮が必要です。

花壇に植栽する植物は、その花のデザイン性や美しさだけではなく、毒のない植物、高温や乾燥に強い植物、さらに花壇から逸出して生態系に影響を及ぼさない植物を選ぶことなどを意識することが、これからの地域の花壇づくりに必要な課題となります。プレミアム花壇を参考にされる数多くの市民に対して、お勧めできる植物を選ぶ視点があると良いでしょう。

（審査委員長　渡邉　美保子）